



Title	人も歩けばコミュニケーションにあたる : お遍路コミュニケーションの可能性
Author(s)	森栗, 茂一
Citation	Communication-Design. 2011, 5, p. 65-79
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/9270">https://hdl.handle.net/11094/9270</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 人も歩けばコミュニケーションにあたる

## —お遍路コミュニケーションの可能性—

森栗茂一（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）

### A Communication seminar from the O-henro: One wandering pilgrimage

Shigekazu Morikuri, Center for the Study of Communication-Design, Osaka University

#### キーワード

お遍路、コミュニケーション、歩き

O-henro (pilgrimage), communication, wandering

## 1. お遍路とは

歩き遍路四国八十八ヶ所は、俗に 1600km（奥の院、別格を含む）。88 の札所本霊場のみで 1000km、徒歩で 55 日くらいかかる。私は、これまで土日ごとに四国遍路を徒歩で廻り、都合 2 回半ほど廻っていたが、2010 年夏、発心して一気に通し廻りを試みた。私の場合は十分な時間が確保できず、ときに公共交通も使い奥の院・別格を含まず 36 日で廻った。潜水めがねをぶら下げ、地元の若者と呑み明かしつつ、30 日で廻ったと言う若者とも出会ったが、とても真似はできない。

四国遍路道（古道）は全てつながっているわけではなく、バイパスの歩道もあれば、トラックが横行する歩道もない国道路側、はたまた、小さな街角を斜めに抜ける旧道もあれば、山中の石畳の古道・竹藪と畑の間の畦道、岩肌が立つ山伏修行の道もある。旧道遍路道がバイパスに横切られ、横断歩道さえないところを遍路が渡るのは珍しいことではない。



図 1 遍路道がバイパスで寸断



図 2 第 6 番札所徳島県安楽寺



図3 コンクリート本堂 第61 番札所  
愛媛県香園寺



図4 第71 番札所 弥谷寺岩窟護摩堂

88ヶ所の札所寺院も、五重塔や伽藍を構える善通寺（弘法大師誕生地：香川県善通寺市）のような大寺もあれば、小さなお堂の札所もある。萱茸の方丈（第6番札所・徳島県安楽寺）もあれば、コンクリート本堂（第61番札所・愛媛県香園寺）もある。山肌断崖に張り付けたような堂もあれば、街中の寺もある。

そこを、菅笠、杖、「南無大師遍照金剛」と書いた笈摺（おいづる：白いユニフォーム）に輪袈裟を首にかけ、布袍（線香、経本、納経帳、納札の紙などを入れる）を持ち、着替えなどの荷物を入れたリュックを背負えば、誰でもお遍路さんとなる。

全札所を通して廻っても良いし、阿波、土佐、伊予、讃岐と国（県）ごとに区切り打ちしても良い。土日祝日ごとに廻るのも良い。歩いて廻っても、自動車・バイクでも、バスツアー、自転車でもよい。自由デザインなのだ。

私の場合は、危険なトンネルや国道の路側を歩くよりも、歩くことを支援する公共交通を活用することもあれば、気になる庵や美しい集落を見つければバスを降りて歩きはじめる。トンネルよりも峠の集落を通り、真夏の昼、灼熱のアスファルトを歩くよりは、朝4時に出発して日差しの低い8時までに16kmを歩くことを好んだ。

無理をしない。こだわらないというのが、「お大師さん」<sup>1</sup>の教えである。自由なファッション、臨機応変の方法で歩く。私は菅笠をやめ、大きく日差しを避けるジャンプ傘を持ち歩いた。日走行距離は50kmの日もあれば、おばあちゃんと話し込み15kmしか歩かない日もある。こうして、2010年の夏、36日800kmを徒歩で歩いた<sup>2</sup>。

ほとんどのところにコンビニがあり、某コンビニチェーンでは、歩き遍路にはお茶ペットボトルが接待される。食事は、どうしてもコンビニおにぎりに偏る傾向にあるので、海辺では極力地産魚料理を食べた。なかでも土佐清水の鯖丼は美味。ただし、夏遍路は水に飢える。廻った札所の数よりも、販売機で買ったアクエリアス・ポカリスウェットの数が2倍以上、経費は2万円以上かかった。

夏遍路 水に飢え、宿を乞い、人に会う

夏遍路 汗を道後の湯で流せ

# 2.

## 善根宿

旅の最大の課題、宿を決めるのは気が重い、反面、楽しい発見、出会いもある。

日本一歩いた男・宮本常一は、有料や高い宿には泊まっていない。民俗学の在地研究者などを連鎖的に紹介され泊めてもらっている。しかし、ちょっとした拍子に途切れる事がある。こんなときは、宿を乞うのに気が重いという。日本には、文武宿といい、文武の才能があるものが情報や技術を伝えれば、誰でも泊めてくれる宿があった。幕末の志士が東西を横行したのも文武宿があったから可能だった。備中高梁（岡山県）の油屋には越後長岡の河井継之介が泊っていた。この油屋こそ、映画「男はつらいよ・寅さんシリーズ」に二度登場し、山田監督らが定宿にしていた文武宿である。日本にはこういう無償の宿や、寅さんが泊まるような商人宿、駅前旅館があったが、今は少ない。無償宿はお遍路の善根宿にのみ残っている。今夏の私の遍路の宿は以下のように分類できる。

表 1 遍路の宿

(1)	通常の旅館・民宿（一般営業）		10泊
(2-1)	宗教的設備のある宿泊施設	大師像や掛軸を祀る旅館、民宿	2泊
(2-2)		宿坊	6泊
(3)	遍路割引など接待行為のある民宿・旅館		6泊
(4)	最低限の有償負担の善根宿		2泊
(5-1)	無償の宿	善根宿	3泊
(5-2)		通夜堂	5泊
(6)	野宿		1泊

接待・善根度・信仰が高ければ宿泊料が安いというわけではない。(1) 一般営業でも、大都市のビジネスホテルで朝うどん朝食・珈琲付で 3800 円から、素泊 6800 円の S プリンズホテルまで多様な宿泊をとった。最近の遍路では個室のホテルが好まれ、宿坊 (2-2) も経営が難しい。二食付きで 6800 円で簡素な料理の宿坊もあれば、第 6 番札所安楽寺宿坊のように 6500 円でホテル並みの料理もある。第 75 番善通寺宿坊のように二食付温泉で 5500 円もある。宿坊は通常の宿と変わらないが、「おつとめ」と称する読経・説教がある。通常の遍路道や札所の門前にある遍路宿（旅館、民宿）には、大師像や仏像が祀ってある宿 (2-1) もあれば、お遍路さんのために朝食は二つ黄身の入った卵を出したり、到着するなりドリンク剤を渡す宿、昼食のおにぎりを持たせる民宿までである (3)。夕食時、明日のコースを自



図5 第87番長尾寺門前  
遍路旅館あづま屋で受講生と



図6 曾根宿うどんの里（徳島県）

作の地図を使って絵物語のように語る宿もある。

（4）善根宿も、無償だと継続困難なので、3000円で二食付（旧教員宿舎、夕食はカレーなど通常食を売店の机でとる）、母屋を善根で貸せば素泊 1000 円、掘立小屋なら 500 円という宿から、（5-1）まったく無償の善根宿（納屋などに板、ゴザ、畳、ふとんを敷く）まである。空地に古いバスを置き、夕食・お茶まで運び入れる無償の善根宿もある。（5-2）通夜堂のなかにも、八十八箇所札所内の通夜堂もあれば、村の大師堂・地藏堂などを解放するところもある。

ただし、善根宿や通夜堂は予約できない。民宿等でも先着優先・混むときは相部屋原則である。無償善根宿は職業遍路（職遍・草遍路）もよく利用する。職遍が長期間居付き村の酒屋に賞味期限切れの酒を要求したり、仲間を集めて酒盛りしたり、生臭い異臭を発する、部屋内部で自炊火気使用をする、洗濯物を干して畳を滴で汚すなどの問題も耳にした。それがきっかけで、閉鎖された善根宿・通夜堂は多い。空調はなく、扇風機がない宿・通夜堂もあった。

そのため、無償の善根宿、通夜堂では、名前・住所・年齢を書いた納め札（弘法大師の絵を描いた細長い紙）を提出し、管理者の面接を受ける。女性専用の部屋がある宿もある。有償なのに、女性の野宿遍路を見つけると無償食事付で泊めてしまう宿もある。なかには、掃除、草取りなどを課す善根宿もある。私も生まれて初めて他人の家の庭の草取り・水撒きをした。職遍のなかには、僧は労働をしないと拒否する者もあるという。若者が泊まる傾向の善根宿もあれば、認知症の一人暮らしの未亡人の善根宿に次から次へと職遍が集まり複数日居つく善根宿もある。公園や道路わきの東屋、バス停小屋にも職遍が居つくことも多く、問題になることもある。概して、住民は若者の遍路には優しいが、職遍、およびそれに風体が似た男性中高年遍路を避ける傾向にある。

### 3. お遍路の種類と数

お遍路さんの数は、88ヶ所「通し」の人もあれば2～3日「区切り」の人もあり、クルマでたまたま立ち寄ったのかクルマ遍路なのかは判別困難である。通常は、ゴールの第88番札所の直前にある前山お遍路交流サロン<sup>3</sup>での無料結願証明書発行数<sup>4</sup>や、21番太龍寺のロープウェイの乗客数<sup>5</sup>で推測する。

職遍が必ず泊るという善根宿と遍路宿を経営するA氏によれば（2010年現在の推測）、全遍路は年間20万人（うちクルマ約2万人、アルキはや6000-4000人〈イベントを含め〉）である。アルキのうち全札所制覇は2000人（うち「通し」は800人）、他に職業遍路100人、という。つまり、8割以上が観光バスなどの区切りツアーである。先達が乗り込み誘導し、参拝読経している間に2名の添乗員が参加者の朱印帳、掛け軸、納札印用のおいずる（白ユニフォーム）を持参して納札所に走り、納経印を受ける。タクシー、ジャンボタクシー、レンタル小型バスによる小規模ツアーもある。



図7 境内がアスファルト舗装され駐車場化した第17番札所徳島県井戸寺

さらに、境内駐車場、門前駐車場などに目立つのが1割のクルマ遍路。これが札所前景観、境内景観を破壊している<sup>6</sup>。アルキは極少数である。しかし、最近、外国人、若者、団塊の世代に通しの歩き遍路が増えている<sup>7</sup>。アルキは退職を期にウォーキングがてらという人も多いが、リストラされたり、人間関係に悩んだり、うつ、自閉での失踪、ときに自責から逃れたい犯罪者なども混じる<sup>8</sup>。自転車愛好から遍路に入る者もある。

これに対して、遍路を人生のすべてとして何度もまわる人を職業遍路、職遍、草遍路と呼ぶ。自らは門付け（遍路）と称する。職遍には、作務衣や袈裟を着た僧形の者と、ジーパンに笄摺のようなスタイルとがある。



前者の例としては、寺に捨てられ育てられたが、あるとき実子でないと追い出され四国を回る職遍がいる。通常の通しは50日だが、各地に居ついて120日くらいで永遠にまわる。

後者の例としては、54歳のとき自転車から始め、現実世界に戻れず58回廻ったBに会った。本人は、「門付けは老人の年金上前はね」と自嘲する。

「廻ると浄化されるというが、門付けして廻れば廻るほど問題を起こす」「遍路地獄。抜け出せない」という。某善根宿で他の僧形草遍路とBが語り合うのに耳をそばだて聞いた。

Cはスポンサーがいたが家賃と電気代をカラオケに使ったらしく、支援を切られてトラブルとなる。バイトをやっているD遍路もいる。行者のようなことをして経を上げる遍路もいる。お供えを全部持っていくEさんもいる。若者遍路から金を巻き上げる門付けもいる。各地で「布施するものだ」と説教しまくる職遍もいる。確かに、生活道具を全部乗せてカートを引きっていく職遍が、タバコをくわえたまま札所のびんずる<sup>9</sup>の賽銭をあさり、本尊を拝みもしない様子に出会ったことがある。

少し親切的な接待好きの高齢者がいると、職遍どおしで情報が流れ、同じ高齢者に、皆が次々たかりに行く。複数の門付けが、特定のお婆さんの家で鉢合わせすることもままある。美容室専門のF遍路もある。その言によれば「あそこでは（動けないから）断られない。パーマをあてているお客から次々とお接待を受けられる」という。この話をしていたBは、「そういう俺も、前に親切にしてくれたお婆さんが留守だと時間をつぶしてまたいく。情けない」という。

こんな話をして、やおらBは、「そろそろ、コンビニの賞味期限切れの弁当を貰って来る時間か。こんなときは、笊摺をつけて（遍路の姿で）行く。だから、笊摺だけは、きれいに洗っている。普通、遍路姿でタバコを買いにコンビニ入ると、万引きを警戒される<sup>10</sup>」と言って立ち去った。

職遍の最後は、行き倒れか、万引き逮捕、ときに指名手配逮捕という。某遍路小屋併設善根宿に居つき、受付をする30歳の青年は「絵描き」だと自称する。キセルタバコを愛用し、会話には挨拶がなく直接会話である。元職遍で、他の職遍を見下している。G大師堂では、職遍が村の大師堂に長期間居付き、村人が御願いしても「堂は遍路に貸すもの」と応ぜず、酒の賞味切れを求めたことで、通夜堂が廃止された。

職遍でも、タバコと酒だけはやめられないのが、遍路地獄の所以である。

## 4. 夏遍路での出会い

■第60番札所横峰寺の手前、愛媛県三芳町で光明寺通夜堂に泊まることになった。夕食を求めたが、開いている食堂を見つけないことができず、スーパー入口の椅子で賞味期限間際

の半額の弁当を食べていた。哀れに見えたのか、お婆さんが1000円札をお接待してくれた。遠慮したが聞き入れられず。新居浜で守護霊の立つ場所を発見し、地元の「兵庫守」を信仰しているとか。「貴方も困ったら行きなさい」と「よく見てくれる先生」の電話番号を教えられた。悩みがあるように見えたようだ。



図8 お接待千円札を受ける（愛媛県西予市内で）

- 第64番札所前神寺を出て愛媛県新居浜市の善根宿中萩庵を朝4時に出て旧道を歩き続けたが、旧道には7時を過ぎても朝食をとることのできる店がない。トマトを洗っていたおばあさんにトマトをわけてもらった。毎朝、採れた野菜を近所に配っているという。
- さらに歩いて国道の関川峠を登っていると、近づく小型車がある。「こんな所で停まったら危ない。お接待は無用」と言おうとしたら、「アルツハイマーの主人が家出した。この先の親類の家に向かっているかもしれない。見つけたら電話して欲しい。このお尋ねチラシを、どこかの駅かコンビニに掲示してください」と言われ、尋ね人のチラシを託される。愛媛県土居駅に掲示した。結局、朝食はとれなかった。
- 88番札所手前、前山（香川県さぬき市）から女体山越は何度も岩を登り、厳しかった。一人歩きの中年女性から「何かが山中でついてくる。歩き出すと音がする。怖いので一緒に歩いて欲しい」といわれる。その昔、山里を荒らす猿を退治して村人の難儀を救った狐師の太郎兵衛の伝説を思い出した。
- 88番から阿讃山脈を越えて10番切幡寺（徳島県）に向かうが到着できず野宿する。川でシャツの汗を流し、東屋で干して寝ていると、「わしゃ農民じゃ」という人と会話。「（私が講演に行く）窪川は養豚で有名、わしも昔は畜産をしたが、結局息子は勤め人となった。農水省の補助事業は、どれも持続経営にならなかった。畜産排泄物を使うバイオマスの大きな施設も、役立たず遊んでいる」という。パンのお接待を、孫が持ってきた。本日の夕食、翌朝の朝食となる。このパンと自動販売機のジュースで2食しのぐ。
- 第3番札所金泉寺の奥様と納経所で御子娘の進路を伺う。保育専攻で教員養成大学に行く



という。

- 第1番霊山寺（徳島県）本堂横の納経所では「通し」の「歩き」とわかれると、特別に歓待してくれた。休憩後、板東駅手前で、クルマが追いかけてきて、ポカリスウェットをくれ、家族がお遍路さんと記念写真を撮ろうという。あまりの暑さと疲労で、杖を投げ捨て座り込んで、記念写真。昨年、家族で遍路に出かけたという。
- 大阪の高校校長が亡くなり、婦人が供養のため遍路に来て徳島県鳴島の景色が気に入り、の第11番札所藤井寺近くに住んだ。軽乗用車で楽しく暮らしきたが、先日大きな事故をおこしたのに、怪我がなかった。以後、お蔭と遍路道の掃除をしているという。
- 12番焼山寺を降りた小学校廃校近くに、すだちの館がある。夫は、阿南の木材買い付け業者で、妻は第21番札所太龍寺下の遍路民宿の娘。夫の知人の導きで善根宿をはじめ。旧教員住宅を利用して安く宿を提供し、記念写真を撮るのを楽しみにしている。広場があるので野宿する人もいるが、女性は危ないので、無料で泊めることもある。
- 第19番札所立江寺（徳島県小松島市）近くの鮎の里は、有料の遍路民宿と無償の善根宿とを併設している。元大工が自力で建設した。実家は旧ルート星宮にある遍路宿である。
- 第23番札所から第24番札所の間、太平洋に面した高知県の東端に仏海庵がある。昔、淀ヶ磯で遭難する遍路を助け供養した木食上人が入定した宝篋印塔が祀られている。近年まで僧尼が住んでおり、若い遍路が一夜の世話になっていた。庵は当時の面影を残したまま、地元の方が整備している。
- 高知県室戸市吉良川は木材流通で栄え、町並み保存がすすめられている。そのなかに昭和初期の様式を残した理容店がある。映画「私は貝になりたい」で、極東軍事裁判C級戦犯で死刑に処せられた元理容師の店のモデルになった店である。小説題材は足摺岬近くともいわれる。
- 高知の土建会社が墓地造成時、寺を建設したが事業中止となる。その施設の一部をレストラン、作業員宿舎を民宿にして、整体師が管理経営している。低価格の遍路宿で、「歩きで痛いところがあるのは、身体部位に対する感謝が足らん」と説教する。レストラン等の従事は、整体の客である高齢者を必要に応じて雇っている。
- 高知の浦戸湾フェリーは40分ごとである。遅れそうになる遍路をみつけると、地元のクルマが「お遍路さん、急いで」と言って、乗り場に先回りして出船を止めてくれていた。
- 高知県土佐市の国民宿舎土佐の経営を引き受けたのは、遍路道に住んでいた元空港ビル職員。社会人類学に関心があり、国民宿舎内にお遍路さんドミトリを運営している。ホテル敷地内に善根宿も手作りしている。また高齢者の滞在型住居も建設中である。
- 若い遍路がビニールハウスの横でスイカを接待されていた。中年は職遍かもしれず、接待がない。若い遍路にはアブがたかるが、私にはコバエがたかる。中年男性はゴミかと自嘲する。

そういえば、第12番焼山寺下の善根宿すだち館のケンちゃん（犬）が私についてきて4km先の寄居集落まで来てしまって困り、引取りに来てもらうよう電話をかけた。ところが、ゴミ収集車が近づくと、ケンちゃんがついていく。必死で押しとどめ、停留所にあった自転車チューブでくくりつけ、飼い主の到着を待った。

- 今年は暑く、高知県四万十市真念庵近くの遍路道（足摺岬からの戻り）で、死亡した遍路がいた。その先、高知県三原村では、ふらふら歩いている青年がいたので某農家が保護し、一泊させた。所持金は1000円しかなかった。TVで、「四国に行ったら金がなくとも誰かが接待してくれる」と漫才師Sが言っていたので、悩み事があったので来たと言う。某農家が休養させ帰りのお金を持たせて返した。この農家は、どぶろく特区で収益があったが、農業だけでは苦しく、息子に継がすことができないという。
- 四万十川の支流、国道から10km奥に民泊し歩いて国道に出ようとする、逆に国道側から歩いてくる人がある。40歳代の女性。「大変ですね」と言うと、昔（の曲がりくねった道）に比べれば歩きやすいという。また、高知県宿毛から峠道を越えて愛媛県の南端、南予市一本松のバス停でも、里帰りした女性が言う。「昔は東京から松山が3時間、松山から宇和島までが3時間、宇和島から一本松までが3時間だった。ハワイに行くほうが近いと笑っていた。それに比べれば、道も良くなって楽なもの」と言う。いろんな遠近感覚があるものだ。
- ハワイで格闘技道場を経営している日系青年と、十五夜橋別格札所（愛媛県大洲市）の通夜堂で会う。全身刺青「大和魂」と書いてある。別格や奥ノ院も全部歩いて廻っているという。もっとも、第45番札所愛媛県岩屋寺で、バスから降りてきた格闘家と出会い、挨拶したのは驚いた。「こんだけの体力でも、バスにも乗るんや！」
- 大瀬（愛媛県内子町）はかつては筏流で栄えた集落だが、その町並みを地元の設計事務所が保全しようとしている。大江健三郎の故郷だ。内子や卯之町の町並み保全に、ここの技術が進出している。
- 愛媛県道後を6時に出て、早朝開店スーパーの前を通り過ぎると「お遍路さん」と呼び止められ、ジュースのお接待を受ける。それに気をよくしていると、別のお婆さんが私の進路のまん前に立ちふさがり「おえろうございます」と手を合わす。「夏はエライ（つらい）ですワ（関西弁流の勝手解釈）」と笑いながら答えていたが、よくよく考えてみると、私はお婆さんに、夏に歩くとは立派なこと、拝みたいほどエライと言われていたようだ。
- 松山北部の三津浜に第52番札所太山寺がある。一の門の内に門前町があり仁王門がある。その内側山門までの山中に5軒の接待宿があった。その一軒では赤い番傘をさして茶店をしている。昔、遍路が疲れて、杖を投げ捨てたので注意したところ曲がり竹になったといわれ、現生している。別の遍路宿では、こんにゃく田楽が名物で、子規の句にある。最近、伊予鉄三津浜駅から町内を廻り大山寺の仁王門まで来る循環バスが走るようになった。高

齢化のため遠のいていた地元のお参りが、このバスで復活し、家庭内の愚痴を茶店で吐き出していくという。



図9 太山寺境内の旧遍路宿が開いた茶店

## 5. お大師さまに会う話

### ■病氣治しの伝承

四国遍路には、病氣が奇跡的に治ったという話が多い。第22番札所平等寺（徳島県阿南市）本堂には、3つの箱車が納められ信仰の対象になっている。その説明板によれば、明治時代、土佐など各地の足の病の者が箱車に乗って、または沿線の村人に引いてもらい担いでもらい廻ったところ、平等寺で完治し、そのお礼に箱車を奉納したという。

一方、第27番札所神峯寺（高知県安田町）は豊かな水が湧き、その水を飲んで脊髄カリエスが不思議に治ったといい、そのお礼の石碑が立っている。さらに、最近、末期ガンの人がお参りに来たところ、その階段の下で僧形の人が現れ水を飲ませてくれた。するとガンが治った。あれはお大師様に違いないという人が居ると納札所で聞いた。

### ■弘法大師生誕の善通寺で

お大師様が現れた話としては、香川県善通寺宿坊で次のような話をもし聞いた。鹿児島県甕島から金毘羅にきた。電車に乗っていると「降りろ」の声がする。善通寺駅から歩くと、川にはまって溺れそうになった。その時、助けてくれた人がいた。後姿が僧形なので、「あれはお大師様に違いない。お礼を言おう」と善通寺にきた。ところが17時を過ぎて大師堂が閉まっていたので宿坊に來たと、濡れ鼠で寺務員に語っていた。当日宿泊の私は、宿坊玄関を後で確かめてみると、確かに滴が垂れていた。寺務員に尋ねると、こういう話を持ってこられる人は珍しくないという。



図 10 同様の奉納箱車（第 57 番札所 愛媛県栄福寺）

### ■曼荼羅寺で

このような話を考慮すると、第 72 番札所曼荼羅寺（香川県）の脇で乾燥うどん販売をしている女性が、「仕事も何とかなっているし、会った歩き遍路は皆、お大師様というどんを接待している」というのも理解できる。接待は、遍路の中にはたかってくる人もいるので止める人もいるが、私は商売と思われてお遍路さんから避けられると嫌だから積極的に呼び込まず、入ってきた歩き遍路さんに接待している。彼女は、私に対して、荷物を置いて、弘法大師が修行した捨身ヶ嶽に登ってきなさいとすすめる。真夏なので躊躇していると、凍ったペットボトルを渡され、私はそれに魅かれて、真夏に急斜面の山を登った。すると、美しい景観が見下ろせ、中腹には真夏なのに極冷の柳の泉があった。夢のような経験をさせていただいた。

### ■浅海大師堂

私は信仰心が低いので弘法大師を見ることはできないが、他人のなかにお大師様を見ることはあった。

実は、今回、40 日 1000km 通し遍路において通夜堂や善根宿・接待宿を経験したいので調べると、だいたいの位置は確認できて住所・電話がわからない。そこで当てずっぽうで手紙を書いたところ、各地から電話、返信ハガキをいただいた。そのなかに、松山・今治間の浅海大師堂から「浜田のおばちゃん」という人からハガキをいただいた。今回、8 月 29 日に高知県四万十町で調査と講演をすることもあり、今治出発、ゴールとしたので、浅海大師堂は最後の宿かと考えていた。

ところが、34 日歩いて、残りわずか、松山の道後温泉でゆっくりすると、通夜堂や善根宿が苦しくなってきた。畳がなく板敷きかもしれないし、布団はないかもしれない（事実、座布団を重ねて寝た）、扇風機はないかもしれない、百足が出るかもしれない、もう十分に通夜堂は体験したではないか。普通の民宿、せめてユースホステルにしてはどうか・・・と、北条 YH に電話をしたら営業していないという。

気を取り直して、駅のベンチに座って、菅首相が昔泊まったというペンションの電話番号を調べようと思い、駅舎に入ると、ホームの車掌から「下り電車、乗るんですか」と大声で聞かれ、思わず「乗ります」と答えて、小走りに電車に乗り込んでしまった。

夕暮れの知らない駅・浅海に降り立ち、無償の宿を乞うのは、乞食家業の慣れない、覚悟のない者には不安である。とほとほと「浜田のおばちゃん」の家を探し出した。そして、呼びベルを押した。すると、想像していた大師堂を守るお婆さんではなく、水道・ポンプの仕事に忙しい40歳台とみうけられる働きざかりの女性が出てこられた。手にした「納め札（氏名、年齢、住所の記入）」を示して通夜堂を乞うと、「よくご無事で…」と深いねぎらいと安堵の声をいただいた。

彼女は、見ず知らずの私のハガキを覚えているだけでなく、猛暑の中を巡る私をずっと気遣ってくれていたのだ。それに比べて私は、自分の都合で他に泊まろうとしていたのである。たまたま北条 YH が臨時休業で、たまたま列車が出るところで、この大師堂に来てしまった。私は彼女の配慮に感激しつつ、それを裏切って楽をしようとした悔いを感じつつ、何度も何度も感謝を述べた。

小奇麗な畳敷きの大師堂に入り、いつも以上に丁寧に経をあげた。40日1000kmの最後の夜、偶然に偶然が重なって得られた出会い、他人の配慮・思いに触れ、感謝の気持ちで感極まっていた。出会う人にお大師様を思う、お大師様に会ったというのは、こういうことなのかもしれないと思いつつ眠った。



図 11 浅海大師堂（愛媛県松山市）

## 6. 春遍路・夏遍路を授業にする

こうした遍路には、退職者や社会逃避者ばかりではなく、一部の若者も挑んでいる。しかし、関心はあっても、そこまで決意できない学生や、そういう試みを許してくれない親、そ



うした活動を認めない研究室も少なくない。

そこで、今年、再度、私が夏遍路を挑むにあたって、関心のある学生、2・3人の参加をもくろみ、授業として募集してみた。すると予想外に、12人（女性3人、社会人1名を含む）の履修があり（留学の都合で女性1名辞退）、あわてて、全体30日を6泊7日の5コースにわけ、女性の安全も配慮して、自由に選択して参加できるようにした。女性3人は、女性配慮の善根宿が多い、徳島県でおこなうこととした。

一方、お遍路のコミュニケーションの一端に触れてみる2泊3日の入門コースにも27人（うち社会人参加4名、教員2名）の参加があった。こちらは、歩速によって7組にわけて歩いた。全体は、携帯電話・GPSで危機管理とプレゼンデータ集めをし、授業者は一番速い集団、遅い集団についた。

5月1日、80番国分寺（香川県国分寺町）から一本松急坂を登り、トトロ（のようと学生が表現する）山道を81番、82番、3〜4人×7班（速さにあわせ）で歩く。

一人で歩いたときに比べ予想以上に時間がかかる。昼から歩き始めたこともあり、日没になる班も出た（この点、反省点あり）。が、美しい桜舞う山海の景色を胸に入宿。疲労の激しい学生もあり。班によりGPSを持たせたが、全員で充分使いこなせなかった。

5月2日、疲労遍路は玉藻城見学の後、屋島シャトルバスで登山、84番、下山。琴電八栗口から徒歩で八栗ケーブル、85番。昼食は人気の山田屋でうどん昼食が多い。琴電で86番志度寺へ。志度から長尾へは、コミバス利用、JR造田経由など、体力にあわせて公共交通も活用して、87番長尾寺門前あづま屋に投宿。5月3日、疲労度にあわせコミバス、または徒歩で前山池おへんろ交流サロン、道の駅。道の駅からは遍路道コースと女体山コースに分かれて、88番大窪寺。

以上のようなコース設定をした。その成果を以下にまとめておく。

- 多様な専攻の学生が班毎にお互いの速度を気遣いながら、語り合いながら歩いた。
- 個々の学生が、個々の体の状態を自分で考慮し、多様なコースを歩いた。挑戦した。
- 通常0〜2組客の古い門前旅館の風呂（定員3名）に、命ぜられずとも互いを気遣いながら27名が連携して入った。まさか全員が入れるとは……。狭い所を譲り合って座り夕食朝食をとった。料金も徴収担当を決めず、教員の前の箱に指定時間に個々にお金を入れて個々がお釣りをとった。記録せずとも信頼しあい、一気にお金が集まった。
- 学生が、参拝者、子ども、住民、旅館のおばさんなど、多様な人に出あい、声をかけてもらい、食べ物の接待を受けて感動していた。





図 12 狭い部屋に 27 人が場所をゆずりあって朝食

- 単に歩いているだけなのに、お遍路という文化風土や地域生活とコミュニケーションし、逆に自己の体と語り合う。仲間が相互信頼し、わかちあい、ささえあい、声掛け合いの教育効果が自ずと出てくる。学生の充実した顔を見ると、お遍路はコミュニケーション教育だとつくづく思う。  
それにしても 27 人は楽しい（「多い」と言ってはいけない）。



図 13 第 88 番結願大窪寺で

## 注

- 1 弘法大師は通常「お大師さん」と呼ばれて、信仰されている。
- 2 一部、バス等、公共交通を使った。
- 3 香川県さぬき市前山地区活性化センター内
- 4 ロータリークラブ発行のお遍路観光大使任命書として、平成 19 年 3229 件、20 年 3183 件、21 年 2929 件、22 年 2856 件。すべてが歩きとは限らない。
- 5 クルマ、一部歩きも含めて、ほとんどの遍路が利用する。平成 20 年度 103667 人、21 年度 96338 人、22 年度 84911 人。

- 6 第49番札所浄土寺は、伊予鉄久米駅前の狭い住宅地のなかにある。バス駐車場もお寺から距離がある。乗用車は狭い路地から門前駐車場に入る。納経所では、賃借している駐車場代のささやかな志納を求めているが、支払わないクルマ遍路も多い。挙句、「看板がわかりにくい」「バス駐車場が遠い」とクレームがつく。なかには、個人の門前にクルマ遍路が駐車し、隣家と争論し住職が呼び出されたり、狭い道に隣家の庭木の先を折りつつ、マイクロバスが無理やり進入することもあったという。年々、クルマ遍路のマナーが悪く、エンジンをふかす、タバコを吸いながら境内に入る、ゴミを置いていく、注意をすれば、居直る、逆切れする…。
- 7 へんろ道保存協会発行
- 8 2003年、トイレ掃除など善行遍路、説教遍路、歌人としてNHKにんげんドキュメントに登場した幸月が、西成署に殺人未遂容疑で逮捕されたのは、一例。
- 9 十六羅漢のひとつ。神通力が高く、堂の外に置かれ、賽銭を集めているが賽銭箱がない場合が多々ある。
- 10 食品は無償で賞味期限切れを貰うが、タバコは買うという。タバコと酒のやめられない職遍は多い。

